

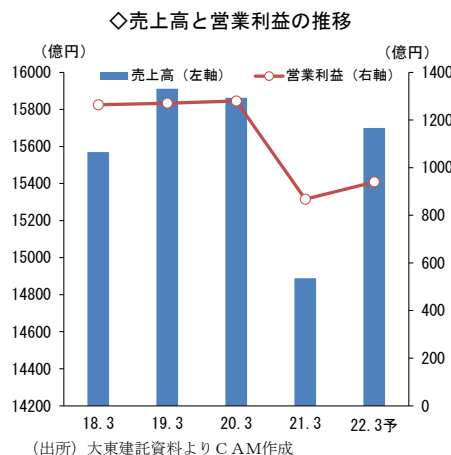
企業ニュース 大東建託

(東証1部: 1878) <https://www.kentaku.co.jp/>

作成者: 高見澤晶子

賃貸住宅の建設・管理・仲介などを手掛ける

遊休資産の有効活用や不動産の相続対策を検討する地主などを顧客とし、賃貸物件建設の企画、提案、設計、施工を行う。自社で建設した物件を一括で借り上げ、管理、運営、仲介なども行う。対面営業による受注力、仲介実績業界首位を誇る入居あっせん力が強み。21. 3期の売上高構成比は建設事業27%、不動産事業68%、金融事業1%、その他4%。2019～2023年度の中期経営計画では、コア事業である賃貸住宅分野を強化した上で、それにとどまらない総合賃貸事業を核とした地域密着型の生活総合支援企業を目指す。また、重要経営指標としてROE20%以上、配当性向50%を掲げている。



不動産好調、建設は下期以降の回復に期待

22. 3期・第2四半期累計 (4-9月) の連結業績は、売上高が7,815億円、前年同期比6%増、営業利益が625億円、同21%増。期初計画に対して、売上高で215億円、営業利益で125億円上振れた。不動産事業は一括借上物件の増加や好調な入居率を背景に家賃収入が増加し、業績をけん引した。建設事業は順調な工事進捗により完成工事高が同4%増となった。受注工事高は1,839億円、同45%増だが、コロナ禍で十分な営業活動ができず、会社計画には届かなかった模様。

22. 3期の通期会社計画は、売上高が1兆5,700億円、前期比5%増、営業利益が940億円、同8%増。上期までの営業利益の進捗率は66%と高いが、会社は計画を据え置いた。ウッドショックによる輸入木材価格の高騰をはじめ、資材や設備の価格上昇影響を懸念している。輸入木材に関してはピーク時から価格は落ち着きつつある。また、上期実績を踏まえ、通期の建設受注高の想定を5,200億円から4,800億円に減額したが、下期は緊急事態宣言等が解除されたことで、得意とする対面営業がしやすい状況になってきており、受注高の回復が期待される。不動産事業は、下期も入居率が大きく下がることはないと思われる、好調な推移が続こう。

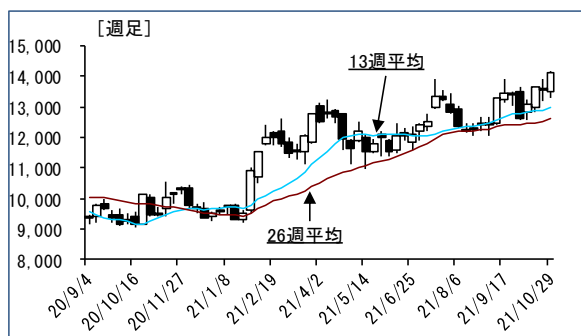
[株価動向・投資判断]

下期以降は当社の強みが発揮され、高水準の入居率を背景とした不動産事業の好調継続、来期にかけて建設事業の回復による堅調な業績推移が見込めよう。

<1878 大東建 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20. 3	1,586,293 (▲ 0)	127,956 (1)	133,028 (1)	90,380 (1)	1,306.7	653.00
21. 3	1,488,915 (▲ 6)	86,738 (▲ 32)	90,607 (▲ 32)	62,285 (▲ 31)	909.3	455.00
22. 3 予	1,570,000 (5)	94,000 (8)	97,000 (7)	65,000 (4)	943.9	472.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/10/29)	14,120 円
年初来高値 (高値日)	14,150 円 (21/10/29)
同 安値 (安値日)	9,200 円 (21/1/18)
予想 P E R (22. 3 予)	15. 0 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	5,238. 8 円
P B R	2. 70 倍
予想配当利回り	3. 34 %
(1株当たり配当金年472. 00円)	
R O E (21. 3)	21. 2 %
発行済み株式数	6,892 万株